

Title	ポール・ゲイツの夢：ある経済史家の肖像
Sub Title	The Jeffersonian dream and Paul Wallace Gates
Author	岡田, 泰男
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2000
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.92, No.4 (2000. 1) ,p.663(1)- 677(15)
JaLC DOI	10.14991/001.20000101-0001
Abstract	
Notes	会長講演
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20000101-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20000101-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

会長講演

# ポール・ゲイツの夢

—ある経済史家の肖像—

岡田泰男

## はじめに

ポール・ゲイツ教授（Paul Wallace Gates）は1999年1月5日に亡くなられた。1901年12月4日のお生まれであったから、まさに20世紀と共に歩まれた一生であった。1999年4月に、教授が永年、研究と教育に勤しまれたニューヨーク州イサカのコーネル大学で、追悼の式典があり、私も参列して一言思い出を述べる機会を与えられたが、30数年にわたりお教えいただいた、さまざまの記憶がよみがえり胸がつまった。慶應義塾大学での恩師、高村象平先生を先に失い、今またゲイツ先生がなくなれば、もはやお叱りを受けることもないという淋しさに耐えられぬ思いがする。

この講演は1998年12月に三田でおこなったものであるが、そのときにはゲイツ先生はまだまだ長生きされるものとばかり思っていた。たまたまその年の大学院の授業で、先生の最後の論文集となった『ジェファソンの夢—アメリカ公有地政策とその発展』という書物を読んだこともあり、公有地史研究の業績をふり返りつつ経済史家としての先生の姿勢を、経済学会の同僚の諸兄姉に伝えたいと思い、この題目を選んだ。今になってみると虫の知らせということであったかもしれない。

## I

「アメリカの夢」という言葉は、しばしば使用されるので耳馴れた感じがする。人により場合により、意味合いはさまざまであるが、一般的に言えば「成功の夢」といったところであろう。丸太小屋に生まれた少年がホワイトハウスの主となる、というのが古典的な例であるが、貧しい移民から大富豪になったり、中西部の田舎町の娘がハリウッドのスターになった話でもよい。今日なら、大学を中退した学生がコンピュータ業界の大立者になるという具合であろう。「アメリカの夢」に一寸似ているが、多分、それほど知られていない言葉として、「ジェファソンの夢」がある。これ

はポール・ゲイツの弟子のアラン・ボウグとマーガレット・ボウグ夫妻が1996年に編んだゲイツの論文集の題名でもあるが、ジェファスンとは、いうまでもなく独立宣言を起草し、第3代大統領となったトマス・ジェファスンである。

ジェファスンの夢とは、アメリカを小農民の国にすることであった。もう少し正確に言えば、小土地所有者が大多数をしめる民主的社会的実現ということになるだろうか。これは、いうまでもなく、ヨーロッパとの対比において考えられたアメリカの理想の姿である。アメリカ独立当時のヨーロッパは、王や貴族の支配する君主政の社会であったが、ジェファスン等が目指したのは、もちろん共和政である。その際、領主制の下の農奴や、地主制の下の小作人ではなく、独立した、すなわち自分の土地を持った小農民こそが、新たに生まれる共和国をささえ、民主主義の基礎になると彼は考えた。自分の土地を持つ小農民であれば、大地主の圧力に屈することもなく、また他を圧迫することもないからである。農民は、さらに工場労働者などに比べ自立性が高い、というのは雇い主に気がねする必要もなく、基本的には衣食住の自給自足が可能だからである。ジェファスン自身は奴隷を所有するプランターであったが、理念としては小農民の国を望んだといえよう。

ところで、ジェファスンの夢は実現される可能性があったか。その可能性をささえたのは、独立によって獲得した公有地 Public Land の存在であった。これは、独立にあたりイギリス政府から取得した西部の土地であり、アメリカ人皆の血とお金によって購われた土地として、連邦政府の所有するところとなった。なお、ここで公有地という訳語について一言つけ加えておく。英語の辞書を引くと、public の最初の意味は「people の」ということであり、国、政府、あるいは役所のという意味は二義的である。これに対して「公」という字には、国、政府、役所という意味のみで、人民という意味は含まれていない。この点は重要な相違であり、Public Land は第一に「人びとの、または皆の土地」という意味である。一時期さかんに使われた「公的資金」という言葉が、アメリカの新聞雑誌では taxPAYERS' money と正確に表現されていたことを思いおこすが、公有地という言葉は、わが国のアメリカ経済史学界で市民権を得ているので、以下、そのまま使用する。

公有地は、皆の土地であると同時に連邦所有地でもある。しかし、政府はそれを一時預かっているだけで、本来は人びとに分配さるべきものである。ジェファスンは独立宣言の中で人間の平等を唱えたが、それを現実のものとするため、公有地を皆に平等に分配することを夢みた。もう少し具体的に言えば、公有地を、なるべく安く、できるならば無償で分配し、小農民の自立を助けるということになるであろう。この考え方には、もう一つの背景がある。それはアダム・スミス流の自由放任の思想である。スミスの『国富論』は独立革命と同じ年に出版されたが、その中で彼は国もしくは政府が経済に干渉する重商主義に反対した。公有地は貴重な資源であるが、それを政府が持っているより、民間人が取得し、自己の利益になるように使えば、社会全体の利益にもなる。すなわち経済発展にもつながるというわけである。したがって、ジェファスンの夢は、小農民の自立と、彼らが公有地を開墾することで、経済発展をもたらすという二重の成果を目指すものともいえる。

しかし、独立後のアメリカの財政事情は、すぐにはジェファソンの夢の実現を許さなかった。連邦政府は、独立はしたものの、戦争中の巨額の借金をかかえており、公有地は関税と並ぶ重要な財源とみなされたからである。紙幣乱発がインフレーションをもたらすことは戦時の経験から明らかであったし、消費税もウィスキー反乱を引きおこした。そのため公有地は、なるべく多くの財政収入をもたらすよう売却された。民間への譲渡という点で、スミスの意味では好ましかったかもしれないが、ジェファソンの本来の意図は実現されなかった。売却単位の大きさや競売による売却に、それが示されている。

ところで、その後の公有地政策は、次第に財政収入重視から、開拓の促進を重視する方向へ移っていったように見える。これは連邦政府の財政事情が好転し、公有地売却による収入に頼らなくともよくなったためでもあったし、西部に新しい州が増加し、開拓者に有利な政策が望まれたからでもあった。売却単位が小さくなり、売却前に入植した開拓民に優先的購入権が認められたことなどに、それが認められる。こうした開拓民重視の政策は1862年に成立したホームステッド法で頂点に達する。この法律は5年間の開墾を条件に、160エーカーの土地を無償で取得できると定めたものだったからである。160エーカーは当時の標準的農場面積であり、かくして、すべての人が小農民として自立する道が開かれた。独立から南北戦争にいたる時代の公有地政策の歴史は、財政収入重視から開拓促進への変化の歴史であり、ジェファソンの夢の実現する過程であったとも見られる。19世紀末に大冊『公有地』を出版したトマス・ドナルドソンや1924年に『公有地政策史』を著わしたベンジャミン・ヒバードは、ほぼそうした見解を取っていたし、それが一般的な見方でもあった。この見方は正しいのか、ジェファソンの夢は実現されたのか、というのがポール・ゲイツの抱いた疑問であり、その学問的生涯は、この問いに答えるために捧げられた。<sup>(1)</sup>

## II

ポール・ゲイツは1901年、アメリカ北東部のニューハンプシャー州に生まれた。幼少の頃、一時期を祖父の農場で過したが、そのことが農業への関心、そして農民の生活への愛着を生んだ。南部のプランターであったジェファソンと、背景は全く異なるが、農業への愛情という点では共通点を持つともいえよう。最初コルビー大学に学び、卒業後クラーク大学の大学院で、ジェイムズ・ヘッジス (James B. Hedges) につく。西部の発展と鉄道の役割についての関心を抱いたのは、この時であった。そこから、高名な西部史家フレデリック・パクスン (Frederic Paxson) のいるウィスコン

---

(1) Thomas Donaldson, *The Public Domain: Its History with Statistics* (Washington, 1884); Benjamin Hibbard, *A History of the Public Land Policies* (N.Y., 1924). なお、本節に関して詳しくは、岡田泰男『フロンティアと開拓者』(東京大学出版会, 1994年)第1章を参照。

シン大学へ移ったが、必ずしも満足できず、1927年ハーヴァード大学へ教育助手として移り、1930年に博士号を得た。ハーヴァードでは、フレデリック・マーク (Frederick Merk) の指導を受け、博士論文は後に『イリノイ中央鉄道とその開拓事業』(1934年)の題名で、ハーヴァード経済学叢書の一冊に加えられ出版された。同書は恩師マークに捧げられている。1930年から1936年まではバックネル大学で教鞭をとり、1936年にコーネル大学に移り、1970年に引退したが、その後も研究活動は継続した。この点は末尾の著作一覧に明らかである<sup>(2)</sup>。

さて、ゲイツがはじめて教職についたのは大恐慌の時代であった。農業は不況にあえぎ、とくに小農民や小作農は苦境におちいていた。農場差押えや、税金滞納のための競売が各地でおこなわれ、しかも農地は荒廃していた。粗放的耕作から表土が流出し、南部ではひでり続きのため砂嵐しがおこり、農民は流出した。スタインベックの『怒りのぶどう』に描かれた世界である。農村の人びとは経済的にも精神的にも疲れはてており、ジェファソンの夢みた小農民の天国など、どこにも見出せなかった。こうした時代背景が、ゲイツの研究に影響を与えたことは否定できない。

ゲイツが一時期、籍をおいたウィスコンシンは、革新主義の伝統が強い。20世紀初頭、州知事となったロバート・ラフォレット (Robert M. LaFollette) は、大学関係者とも強い関係を持っていたが、彼による諸改革は、ウィスコンシンを「民主主義の実験室」とした。この伝統に、若いゲイツがなんらかの刺激を受けたことは当然であろう。そしてバックネルで教えていた時代に、ニューディールが開始された。ゲイツは大学に籍をおいたまま、連邦政府の農務省におかれた農業調整局で研究にたずさわった。これは例の農業調整法 (AAA) の実施のための機関であるが、ゲイツが仕事をしたのは『南部農業史』(1933年)の著者ルイス・グレイ (Lewis C. Gray) が長をつとめる土地政策部門であった。ゲイツは、上記の農村の苦境の一因は、過去の公有地政策の誤り、公有地制度の欠陥にあると考えた。この時期の研究は、1935年に「連邦政府の近年の土地政策」として公表されているが、歴史家としてのゲイツの存在を世に知らしめたのは、1936年、アメリカ歴史学会の機関誌に掲載された「不調和な土地制度下のホームステッド法」という論文であった<sup>(3)</sup>。

ホームステッド法は、前にも述べたようにジェファソンの夢を実現するはずの法律であり、ゲイツがこの論文を発表した当時は、一応、そう考えられていた。そして、ミシシッピ川以西の西部の土地は、この法の下に開拓されたと信じられていた。ゲイツは、ホームステッド法は成立したものの、それと理念の合致しない種々の法律 (公有地売却制度、州や鉄道への公有地付与、インディアン所有地の処分等) が存続し、かつ行政面での不備も重なり、ゴールは達成されなかったことを明らかにした。公有地売却制の存続は大土地取得を引続き可能にし、州や鉄道への付与は特別の利害関係

---

(2) 本論文中にあげるゲイツの著作は、すべて末尾の著作一覧に示してあるので、いちいち註記しない。この一覧は Bogue, ed. *The Jeffersonian Dream* (1996) による。

(3) Lewis C Gray, *History of Agriculture in the Southern United States to 1860* (Washington, 1933).

者の優遇や、大土地所有者としての鉄道を生み、さらにインディアン所有地は、しばしばホームステッド法の対象外であった。こうして小農民が自分の農場を得る道は狭められたのであり、フロンティアの土地は自由な土地とはいえなかった。

ところで、自由な土地といえば、ターナーにふれないわけにはいかない。フレデリック・ターナー (Frederick J. Turner) は、アメリカ史学史上の巨人であり、その名はフロンティア学説の創始者として記憶されている。ターナーは、1893年に発表した論文でフロンティアの存在がアメリカの発展に決定的な影響を与えたことを主張し、フロンティアの自由な土地 (誰もが、求めれば取得できる土地) は、機会の平等、個人主義、立身出世の自由、民主主義の発展を助長したと述べた。言葉をかえれば、アメリカの夢を実現可能ならしめたのは、フロンティアである<sup>(4)</sup>と述べたのである。

ターナー学説の影響は大きく、ゲイツが大学で学んだ時代には、その説はほとんどの教科書にとり入れられ、支配的ともいえた。ターナーはウィスコンシン大学で教えた後、ハーヴァードに移り、1924年に引退していたので、ゲイツはターナーに直接教えを受けたわけではない。しかし、ヘッジスも、パクソンもターナーの弟子であったし、マークはハーヴァードにおけるターナーの西部史の講座の後継者であった。したがって、ゲイツはターナーの孫弟子ともいえるのであって、明らかにその影響下に育ったのであった。もっとも、ターナーの引退後はそれに対する批判も生じており、ゲイツの研究生生活は、そうした雰囲気の中で始められた。そして彼は、ターナー批判の一翼を担うことになる。

### III

ゲイツのホームステッド論文は、フロンティアの土地は、皆が望めば取得できる自由な土地ではなかったことを示した。さらに、ターナーは開拓民、あるいはジェファス的な自立した小農民こそ、アメリカ民主主義の担い手と考え、彼らに注目した。しかし、ゲイツは、フロンティア、そして西部の住民が開拓民や自立した農民ばかりでないことを見出した。すなわち土地投機業者、地主と小作人、大農場主や農場労働者などである。これらは、開拓民がアメリカ的なヒーローであるのに対して、非アメリカ的なアンチヒーローといえるが、ゲイツが注目したのはこうした存在であり、「西部の発展における土地投機業者の役割」(1942年)、『フロンティアの地主と開拓地の小作人』(1945年)「フロンティアの大土地所有者と農場労働者」(1957年)などに、その姿と役割が描かれている。

土地投機業者は、連邦政府と開拓民の間に介在して、不在所有地、小作制、大農場、土地なき労

---

(4) ターナー学説については、岡田泰男「フロンティア理論100周年」(『三田学会雑誌』87巻3号、1994年)を参照。

働者を生んだのであり、ゲイツの批判は何よりも土地投機、そして大規模な投機業者に向けられる。彼らこそが、ジェファソンの夢の実現を妨げたからである。西部、といっても、ゲイツが対象としたのは主に中西部であるが、中西部はアメリカのハートランド、まさに心臓部であり、ターナーのフロンティア学説の故郷でもあった。ターナーは中西部の出身であり、そこでの経験と、中西部の歴史が、ターナー理論に色濃く反映していた。その伝統からいえば、中西部こそは民主主義の本拠地ともいうべきであったが、ゲイツは上記の諸論文をはじめとする多数の論文、書物の中で、その見方を批判した。中西部は必ずしも民主主義的とはいえない、とくに土地所有の観点からすると民主的とはいえなかったからである。

中西部の開拓は、ホームステッド法成立前から、開始されていたが、そこでは投機業者がまず公有地を買占めてしまい、後から来た移住者は、しばしば小作農や労働者にならざるをえなかった。投機業者は、もともと東部におり、その土地も東部で転売されたため、不在地主が生まれることになる。彼らは土地の値上りを待っているだけであって、地域の開発に貢献せず、現地の政府のコストも負担しなかった。そのため道路、学校、教会などの建設はおくれ、「投機業者の砂漠」と呼ばれたような未開発地が目立つことになる。一方、鉄道の駅や、郡の役所をどこに設置するかということになると、投機業者の影響力は強く、彼らに好都合な場所が選ばれてしまい、開拓民の都合などは無視されることが多かった。また、小作人は最初開墾の義務を負わされるが、彼らの努力によって開拓が進めば地価が上昇し、結局、自作農になることが困難になる。アメリカでは、農村の若者が、労働者、小作農、自作農と「農業のはしご」を登ってゆくという説が信じられていたが、ゲイツはその困難さを示したのである。アメリカで小作農の統計がとられはじめたのは1880年であるが、ゲイツはそれ以前から小作農がいたことを明らかにした。小作農は資金も十分でないので粗雑な農耕をすることが多く、それは後の表土流出などの原因となった。

以上のような結果が生じたのは、結局は公有地政策の失敗、もしくは、それが上手く働かなかったからだとゲイツは考えた。その見方は、19世紀における公有地政策への批判家、ジョージ・ジュリアン (George Julian) やヘンリー・ジョージ (Henry George) に似かよった点を持っている。彼らは土地改革主義者と呼ばれたが、公有地政策を改革することによって土地投機や大土地所有者を抑制し、小作農や貧民を助けることを主張した。その主張の一部は、後の革新主義にもつながるが、ゲイツはジュリアンやジョージの主張に同感すべき点のあることを見出した。彼らの主張は19世紀後半の農民の苦境を背景にしていたが、ゲイツが研究を始めた頃も、すでに述べたように農民は窮状におちいっており、こうしたことが、ゲイツの共感の一因であったかもしれない。ジュリアンやジョージは極めて熱のこもった文章を書いたが、経済史家としてのゲイツは、こうした文章にも学ぶところがあつたように思われる。

著作一覧を見れば分かるように、ゲイツは極めて多くの論文を書き、熱のこもった主張を展開した。その文章は説得力に富み、その燃え立つような調子は、イギリスの経済史家トニー (R. H.

Tawney) を思いおこさせる。例えば、ゲイツが「土地投機業者の役割」の末尾において、投機業者を批判しつつ、彼らがフロンティアと西部に与えた影響を示した文章は、トーニーが『16世紀の農業問題』の中で、「イギリス帝国を築き、イギリス国民の多数を亡ぼした」土地貴族を論じた部分を思いおこさせる。トーニーが土地を追われた貧しい農民に同情をよせたように、ゲイツは小作農に同情する。フロンティアの開拓民は彼らなりに公有地法の抜け穴を利用し、小規模な投機もおこなった。しかし、こうした行為と大規模な土地投機業者によるそれとを一緒にしてはならない。開拓民は、まさに土地を開墾し、耕す人だったのであり、西部社会の形成と発展に貢献したからである。独立した小農民の社会を、民主主義と等置する点で、ゲイツはジェファソンの伝統を継いでいる。小土地所有者が大多数をしめる国こそ、ジェファソンの描いたアメリカの理想の姿であり、ゲイツもその視点から、公有地政策の誤り<sup>(5)</sup>を批判したのである。

#### IV

ゲイツは極めて勤勉な研究者であった。コーネル大学では人気の高い教授であったが、引退した後も、朝早くから図書館に通った。昼食の時間を節約するため、ランチはりんご1つをかじるだけ、という伝説もあったが、これはウィスコンシンなどへ史料調査に行った時の話であろう。もっともコーネルでは、夕食をとりて家へ戻り、また図書館の中の研究室へ戻るという毎日であった。90才を越えても研究を続けたが、ある日、図書館へ向かう芝生の道で、軽い発作を起して倒れ、気を失った。救急車が呼ばれ救助の人がかけつけると、目を開いたゲイツは“Take me to the library”と云ったそうである。

なお、ゲイツの研究の対象は当初、中西部であったが、カリフォルニアについても早くから関心をよせていた。これはヘンリー・ジョージの主張の生まれた土地であったからかもしれないが、とくに引退後はカリフォルニアに関心を集中させた。カリフォルニアは、一般の歴史家にとっては金の発見とゴールド・ラッシュ、スペイン・メキシコ領時代の牧歌的情况などが注目の的であったが、ゲイツの主題は土地問題である。カリフォルニアも大土地所有が優勢な土地で、移住者にとって土地所有の壁はシェラネヴァダ山脈より高いともいわれたほどであった。これには公有地政策のみでなく、スペイン・メキシコ領時代からの大土地所有、もしくはその権利をどう扱うかがからんでいた。ゲイツの研究は、1991年に出版された『カリフォルニアの土地と法』にまとめられているが、いわゆるゴールデン・ステイトが、小農民や開拓者にとっては黄金郷でなかったことが明らかにされている。カリフォルニアはターナーがハーヴァードを引退した後に住んだ土地であったが、ゲイツもその最晩年をカリフォルニアで過ごした。穏やかな気候の陰の厳しい現実に、ゲイツの目は向け

---

(5) R.H. Tawney, *The Agrarian Problem in the Sixteenth Century* (London, 1912), p. 316.

られたのであった。

ところで、ゲイツはターナー的見取り図への批判から出発したが、ゲイツの見方が一般に受け入れられるようになると、当然、それへの批判も生ずる。とくに、1950年代から60年代に、いわゆる新しい経済史が生まれ、ゲイツを含む伝統的経済史家の業績は批判の対象となった。ゲイツの場合、土地投機業者や小作制についての見解が批判され、これらは市場における合理的行動の産物であり、公有地政策の失敗の結果ではないとされた。また公有地政策も全体としてみれば、土地の私有化に成功した点で、いくらか悪影響はあったにせよ、経済成長に貢献したと評価された。ゲイツはジェファソンの夢の尊重などと、いささかロマンチックすぎるというのが、新しい経済史家の見方であった。しかし、それからすでに一世代が経過した今日から振りかえてみると、当時の新しい経済史は、あまりにも狭い経済学的視角からのみ問題を分析し、歴史的文脈を無視していた。現代の新進の経済史家の中には、ゲイツを再評価し、19世紀にあって農業は一つの生き方であり、小農民は市場の中でのみ生きていたのではないと指摘する者も現れている。

一方、ゲイツは批判に対しては、むしろそれを歓迎し、また自身でも以前の見解を修正することをためらわない。自説の修正という点で最良の例は、ホームステッド法に対する評価であろう。1936年の論文は、ホームステッド法がその目的を果せなかったという点を強調したが、その後は、このゲイツの見解が通説化していた。しかし、ゲイツは1963年に発表した「ホームステッド法・自由土地政策の実施」という論文の中で、ホームステッド法は全くの失敗ではなく、1900年以前、とくに1880年までの期間においては、自由な公有地を農民の手に渡し、西部の発展に貢献したと述べた。先の論文によって、振子が少々ゆれすぎ、ホームステッド法に対する評価が否定的になりすぎた、というのが修正論文を発表した理由であった。

ゲイツに対して、さまざまな批判がなされ、また自説の修正もおこなわれたとはいえ、ゲイツの見解は、大筋において批判に耐え、今日も受けいれられている場合が多い。これはゲイツの所説が、きわめて多様な史料と堅固な実証によってささえられているためである。ゲイツは連邦政府土地局 (General Land Office) をはじめとする中央、地方の種々の土地関係史料、国勢調査の原資料、裁判、抵当、税金などの記録、新聞、雑誌、州政府や農業協会の記録、郡史、さらに投機業者や農民の個人的史料など、多種多様な史料を利用した。そのほとんどは、ワシントンや地方の役所、あるいは文書館に眠っていた手書きの史料であって、これら膨大な一次史料に親しんでいたことが、ゲイツの書いた論文や書物に豊かさ、緻密さ、そして具体性を与えている。これは、概説書として書かれた『農民の時代』(1960年)のような場合にもいえる。

## V

ゲイツは図書館や史料館で多くの時間を費やしたが、その研究は単なる書齋の学問にとどまった

わけではない。研究者として出発したときに、農業調整局に籍をおいたことを記したが、1965年、公有地に関する諸法令の再検討と改正のため公有地法調査委員会が設置されると、その委嘱を受け歴史的背景の検討にあたった。この委員会は、私自身もその一員として末端に加わったので思い出が深い。ゲイツの『公有地法発展史』（1968年）は、その研究の成果である。この委員会の最終報告は1970年に出されたが、その結論や提言は、公有地の経済的利用を促進させようとするもので、資源や環境の保全に必ずしも十分な配慮をおこなうものではなかった。この点は、環境保護を主張するグループにとって不評であったが、ゲイツもまた委員会の結論に批判的であり、『圧力団体と最近の土地政策』（1980年）の中で、この問題をとり扱った。

ゲイツにとって、歴史は単に過去の事柄ではなく、常に現在の問題と結びついていた。現代の課題としての環境や資源保全の問題にゲイツが関心をよせたのは当然であった。とくに、それは公有地とのつながりが深いからでもある。さらにいえば、ゲイツはジェファソンの夢を追うロマンチストなどではない。彼の歴史的認識は、1953年に発表されたアメリカにおけるリベラリズムの意義と変遷を述べた論文に明らかに示されている。19世紀のリベラリズムは、当初、ジェファソンや自由平等の精神に象徴される個人主義であった。しかし、南北戦争後、これは実業家や大企業の利益のために利用され、保守的なものに変貌してしまった。したがって、19世紀の民主的個人主義の精神は、20世紀においては民主的集団主義（democratic collectivism）に受けつがれている、というのがゲイツの見方である。公有地政策の面からいえば、公有地の私有化、利用面をも含めての自由放任ではなく、公有地の保護と保存、乱用と乱開発に対する制限や規制こそ、20世紀に求められていた政策といえる。

公有地は誰のものか、誰の利益のために使われるべきか、という問題は独立革命以来、論争的となってきた。とりわけ、東部と西部という二つの地域は、それを自分の地域に有利なよう利用しようとして争ってきた。ゲイツの立場は、これをアメリカ国民全員のものと考え、すべての国民の貴重な遺産を皆で守ってゆこうとするものである。アメリカの小学生が大好きな “This land is your land” という歌がある。This land is your land/this land is my land/From California to the New York island と続き、this land was made for you and me と結ばれるこの歌は、ゲイツの気持に通じるものを持っている。アメリカを小土地所有者の国としようとしたジェファソンの夢は実現されなかった。しかし、ゲイツはそれを20世紀にふさわしい形で受けつごうとした。<sup>(6)</sup>

1953年に発表された上記の論文の最後に、ゲイツはこう記している。「公有地に関して、アメリカは財政源としての見方や、無償付与や独占の段階を経て……永続的な公的所有と管理が確立され

---

(6) 北欧には、私有地をも含めた自然環境享受権という観念が存在することを、飯野靖四教授から教えられた。アメリカには北欧からの移民も多いが、この観念は制度としては伝えられなかった。記して感謝する。

る時代に到達した。われわれ皆が、国立公園や国有林の美しい自然、素晴らしい景観を楽しみ、ボルダージェムやグランドクーリーダムの大きさに感激し、灌漑水利事業により荒れ地が豊かな農地や繁栄する都市に変えられたことに驚嘆するだろう。」ここに語られているのは、ゲイツの夢であり、信念である。経済史家の学問と信念とは、さまざまな形で結びついて表明される。わが国においても、大塚久雄と近代化、増田四郎と市民意識などが思い浮かぶが、ゲイツの学問をささえるのは、アメリカ民主主義の基礎はかつての小農民に代表されるスモール・ピープルであるとの信念である。公有地は彼らのものであり、彼らのために政府はその管理、保護、利用をおこなうべきだとゲイツは考えた。

しかし、20世紀後半のアメリカ公有地をめぐる現実の動きは、ゲイツの夢と合致しなかった。西部諸州は1970年代末の「山よもぎの反乱」に示されたように、自然資源の自由な開発を主張した。そしてカリフォルニア州知事であったレーガンが大統領になった後、公有地の保護よりは開発を求める業者の利益が優先された。1970年の公有地法調査委員会の報告書には『国土の3分の1の土地』という題がつけられていたが、今日では公有地は国土の4分の1に減少してしまった。また1902年に制定されたニューランズ法（灌漑法）は、本来、小農民の家族農場を西部につくり、大土地所有を分割する目的を持ち、ホームステッド法の理念を、灌漑が必要な土地にも実現させようとするものだった。そのため連邦政府が建設するダムの灌漑用水は、土地所有者1人あたり160エーカー分の利用に限るとされていた。けれども、この160エーカー制限は守られず、しかも、1982年の法改正によって最初の理念は放棄され、大土地所有者、大農場主に好都合なように、利用方法が改められた。カリフォルニアの土地問題についてのゲイツの晩年の研究は、こうした点をも対象としていた。

政治、経済の面で東部が支配的地位を占めていることに、西部は不満を持ち続けてきた。しかし、ゲイツは「西部の敵は、外部からの植民地主義や東部資本による支配ではない。むしろ、西部に存在する自然資源の賢明な利用法を妨げるような、西部の経済利害こそ、西部自らの敵なのだ」と1985年の論文で説いている。歴史の分析と現実に対する批判との統一は、ゲイツが研究を始めて以来、一貫してとってきた姿勢であった。

資源の適正な管理、自然の保護により、アメリカの公有地が、これからも国民に享受されるか否か。ゲイツの夢の実現は21世紀にかかっている。しかし、ゲイツのもう一つの夢であった公有地史の研究の進展は、ゲイツの多くの弟子や孫弟子、あるいはゲイツの研究に刺激を受けた学者によって、大きく進んでいる。ゲイツの用いた、多面的な分析、多様な一次史料による研究は、今や一般化しており、批判や再批判も盛んである。こうした面で、ゲイツの夢は実現したといえるが、経済史家としての彼の姿勢に、われわれはまだ多くを学ばねばならない。

(経済学部教授)

ポール・ゲイツ教授著作一覧

著書

- The Illinois Central Railroad and Its Colonization Work*. Cambridge : Harvard University Press, 1934.
- The Wisconsin Pine Lands of Cornell University : A Study in Land Policy and Absentee Ownership*. Ithaca : Cornell University Press, 1943.
- Frontier Landlords and Pioneer Tenants*. Ithaca : Cornell University Press, 1945. Reprinted from *Journal of Illinois State Historical Society* 38 (June 1945).
- Fifty Millions Acres : Conflicts over Kansas Land Policy, 1854-1890*. Ithaca : Cornell University Press, 1954.
- The Farmer's Age : Agriculture, 1815-1860*. New York : Holt, Rinehart, and Winston, 1960.
- Agriculture and the Civil War*. New York : Alfred A. Knopf, 1965.
- Editor. *California Ranchos and Farms, 1846-1862*. Madison : State Historical Society of Wisconsin, 1967.
- History of Public Land Law Development*. With a chapter on legal aspects of mineral exploitation by Robert W. Swenson. Washington, D.C. : Government Printing Office, 1968.
- Landlords and Tenants on the Prairie Frontier : Studies in American Land Policy*. Ithaca : Cornell University Press, 1973.
- Editor. *The Fruits of Land Speculation*. New York: Arno Press, 1979.
- Editor. *Public Land Policies : Management and Disposal*. New York : Arno Press, 1979.
- Editor. *The Rape of Indian Lands*. New York : Arno Press, 1979.
- Pressure Groups and Recent American Land Policies*. Ithaca : Department of History, Cornell University, 1980.
- Land and Law in California : Essays on Land Policies*. Ames : Iowa State University Press, 1991.
- The Jeffersonian Dream : Studies in the History of American Land Policy and Development*, ed. Allan and Margaret Bogue. Albuquerque : University of New Mexico Press, 1996.

共著および序文

- "Introduction." in *The John Tipton Papers*. Comp. A. Blackburn. Ed. Nellie Armstrong Robertson and Dorothy Riker. Indiana Historical Collections. 3 vols. Indianapolis : Indiana Historical Bureau, 1942, vol. 1, pp. 3-53.
- "From Individualism to Collectivism in American Land Policy." in *Liberalism as a Force in History : Lectures on Aspects of the Liberal Tradition*. Ed. Chester McA. Destler. Henry Wells Lawrence Memorial Lectures. No. 3. New London : Connecticut College, 1953, pp. 14-35.
- "Weyerhaeuser and Chippewa Logging Industry." in *The John H. Hauberg Historical Essays*. Ed. O. Fritiof Ander. Augustana Library Publications. No. 26. Rock Island, Illinois : Augustana Book Concern, 1954, pp. 50-64.
- "Frontier Estate Builders and Farm Laborers." in *The Frontier in Perspective*. Ed. Walker D. Wyman and Clifton B. Kroeber. Madison: University of Wisconsin Press, 1957, pp. 144-63.
- "The Homestead Act : Free Land Policy in Operation, 1862-1935." in *Land Use Policy and Problems in the United States*. Ed. Howard W. Ottoson. Lincoln : University of Nebraska Press, 1963, pp. 28-46.
- "Foreword." in *History of the Public Land Policies*. Benjamin Horace Hibbard. Madison : University of Wisconsin Press, 1965, pp. v-xiii.
- "Ulysses Prentiss Hedrick, Horticulturist and Historian." Introduction to *A History of Agriculture*

- in the State of New York*. Ulysses P. Hedrick. New York : Hill and Wang, 1966. Reprinted in *New York History* 67 (July 1966), 219-47.
- "Introduction." in *The Public Domain : Its History, With Statistics to June 30 and December 1, 1883*. Thomas C. Donaldson. Reprint. New York : Johnson Reprint Corporation, 1970, pp. vi-xvi.
- "Indian Allotments Preceding the Dawes Act." in *The Frontier Challenge : Response to the Trans-Mississippi West*. Ed. John G. Clark. Lawrence : University of Kansas Press, 1971, pp. 141-70.
- "Corporation Farming in California." in *People of the Plains and Mountains ; Essays in the History of the West. Dedicated to Everett Dick*. Ed. Ray Allen Billington. Westport, Connecticut : Greenwood Press, 1973, pp. 146-74.
- "Foreword." in "Paul Schuster Taylor, California Social Scientist ...." An interview by Susanna R. Ries. 3 vols. Berkeley : Regional Oral History Office, 1975, vol. 2 (California Water and Agricultural Labor), typescript reproduction, iii-v.
- "Public Land Disposal in California." in *Agriculture in the Development of the Far West*. Ed. James H. Shideler. Washington, D.C. : Agricultural History Society, 1975, pp. 158-78.
- "Major Powell's 'Arid' Lands in Kansas." in *Kansas and the West : Bicentennial essays in Honor of Nyle H. Miller*. Forrest Blackburn et al. Topeka : Kansas State Historical Society, 1976, pp. 123-29.
- "The Nationalizing Influence of the Public Lands : Indiana." in *This Land of Ours ; The Acquisition and Disposition of the Public Domain*. Indianapolis : Indiana Historical Society, 1978, pp. 103-26.
- "California Land Policy and Its Historical Context : The Henry Geoge Era." in *Four Persistent Issues : Essays on California's Land Ownership Concentration, Water Deficits, Sub-State Regionalism, and Congressional Leadership*. Berkeley : Institute of Governmental Studies, University of California, 1978, pp. 3-30.
- "Foreword" to *Essays on Land, Water and the Law in California*. Paul S. Taylor. New York : Arno Press, 1979.
- "The Federal Land : Why We Retained Them." in *Rethinking the Federal Lands*. Ed. Sterling Brubaker. Washington, D.C. : Resources for the Future, inc., 1984, pp. 35-60.

#### 論文

- "The Disposal of the Public Domain in Illinois, 1848-1856." *Journal of Economic and Business History* 3 (February 1931), 216-40.
- "The Promotion of Agriculture by the Illinois Central Railroad, 1855-1870." *Agricultural History* 5 (April 1931), 57-76.
- "The Land Policy of the Illinois Central Railroad, 1851-1870." *Journal of Economic and Business History* 3 (August 1931), 554-73.
- "The Campaign of the Illinois Central for Norwegian and Swedish Immigrants." *Norwegian-American Historical Association Studies* 6 (1931), 66-88.
- "Large-Scale Farming in Illinois, 1850 to 1870." *Agriculture History* 6 (January 1932), 14-25.
- "The Railroads of Missouri, 1850-1870." *Missouri Historical Review* 26 (January 1932), 126-41.
- "The Struggle for the Charter of the Illinois Central Railroad." *Illinois State Historical Society Transactions for the Year 1933-40*, pp. 55-66.
- "Historical Periodicals in the College Libraries of Pennsylvania." *Social Studies* 25 (January 1934),

10-11.

- "Official Encouragement to Immigration by the Province of Canada." *Canadian Historical Review* 15 (March 1934), 24-38.
- "American Land Policy and the Taylor Grazing Act." *Land Policy Circular* (October 1935), 15-37.
- "Recent Land Policies of the Federal Government." *Certain Aspects of Land Problems and Government Land Policies*. in Report on Land Planning, pt. 7 (1935), 60-91.
- "The Homestead Law in an Incongruous Land System." *American Historical Review* 41 (July 1936), 652-81.
- "A Fragment of Kansas Land History : The Disposal of the Christian Indian Tract." *Kansas Historical Quarterly* 6 (August 1937), 227-40.
- "Land Policy and Tenancy in the Prairie Counties of Indiana." *Indiana Magazine of History* 35 (March 1939), 1-26.
- "Southern Investments in Northern Lands before the Civil War." *Journal of Southern History* 5 (May 1939), 155-85.
- "Federal Land Policy in the South, 1866-1888." *Journal of Southern History* 6 (August 1940), 303-30.
- "Land Policy and Tenancy in the Prairie States." *Journal of Economic History* 1 (May 1941), 60-82.
- "Western Opposition to the Agricultural College Act." *Indiana Magazine of History* 37 (June 1941), 103-36.
- "The Role of the Land Speculator in Western Development." *Pennsylvania Magazine of History and Biography* 66 (July 1942), 314-33.
- "Hoosier Cattle Kings." *Indiana Magazine of History* 44 (March 1948), 1-24.
- "Cattle Kings in the Prairies." *Mississippi Valley Historical Review* 35 (December 1948), 379-412.
- "The Land System of the United States in the Nineteenth Century." *Proceedings of the First Congress of Historians from Mexico and the United States* (1950), 222-55.
- "The Struggle for Land and the 'Irrepressible Conflict.'" *Political Science Quarterly* 66 (June 1951), 248-71.
- "The Railroad Land-Grant Legend." *Journal of Economic History* 14 (Spring 1954), 143-46.
- "Research in the History of American Land Tenure : A Review Article." *Agricultural History* 28 (July 1954), 121-26.
- "Private Land Claims in the South." *Journal of Southern History* 22 (May 1956), 183-204.
- "Adjudication of Spanish-Mexican Land Claims in California." *The Huntington Library Quarterly* 21 (May 1958), 213-36.
- "Charles Lewis Fleischmann, German-American Agricultural Authority." *Agricultural History* 35 (January 1961), 13-23.
- "California's Agricultural College Lands." *Pacific Historical Review* 30 (May 1961), 103-22.
- "Vermont : Home of the Morgan Horse." *New England Galaxy* 3 (Fall 1961), 7-15.
- "California's Embattled Settlers." *California Historical Society Quarterly* 41 (June 1962), 99-130.
- "Tenants of the Log Cabin." *Mississippi Valley Historical Review* 49 (June 1962), 3-31.
- "The Morrill Act and Early Agricultural Science." *Michigan History* 44 (December 1962), 189-302.
- Free Homesteads for all Americans : The Homestead Act of 1862*. Washington, D.C. : Civil War Centennial Commission, 1962.
- "The Homestead Act in Operation." *Farm Policy Forum* 15 (3) (1962-1963), 19-23.
- "Charts of Public Land Sales and Entries." *Journal of Economic History* 24 (March 1964), 22-28.

- “The Homestead Law in Iowa.” *Agricultural History* 38 (April 1964), 67-78.
- “Land and Credit Problems in Underdeveloped Kansas.” *Kansas Historical Quarterly* 31 (Spring 1965), 41-61.
- “Pre-Henry George Land Warfare in California.” *California Historical Society Quarterly* 46 (June 1967), 121-48.
- “Changing Agriculture.” *The Challenge of Local History*. Albany: University of the State of New York, 1968.
- “The Frontier Land Business in Wisconsin.” *Wisconsin Magazine of History* 52 (Summer 1969), 306-27.
- “The Suscol Principle, Preemption and California Latifundia.” *Pacific Historical Review* 39 (November 1970), 453-71.
- “Public Land Issues in the United States.” *Western Historical Quarterly* 2 (October 1971), 363-76.
- “The California Land Act of 1851.” *California Historical Quarterly* 50 (December 1971), 395-430.
- “Problems of Agricultural History, 1790-1840.” *Agricultural History* 46 (January 1972), 33-58.
- “Research in the History of the Public Lands.” *Agricultural History* 48 (January 1974), 31-50.
- “The Fremont-Jones Scramble for California Land Claims.” *Southern California Quarterly* 56 (Spring 1974), 13-44.
- “Jonathon D. Stevenson and the New York Volunteers.” *The Westerners Brand Book* (Number 14, 1974), 123-45.
- “The Land Business of Thomas O. Larkin.” *California Historical Quarterly* 54 (Winter 1975), 323-44.
- “Public Land Disposal in California.” *Agricultural History* 49 (January 1975), 158-78.
- “An Overview of American Land Policy.” *Agricultural History* 50 (January 1976), 213-29.
- “Homesteading in the High Plains.” *Agricultural History* 51 (January 1977), 109-33.
- “Carpetbaggers Join the Rush for California Land.” *California Historical Quarterly* 56 (Summer 1977), 98-127.
- Land Policies in Kern County*. Bakersfield: Kern County Historical Society, 1978.
- “Two Hundred Years of Farming in Gilsom.” *Historical New Hampshire* 33 (Spring 1978), 1-24.
- “Federal Land Policies in the Southern Public Land States.” *Agricultural History* 53 (January 1979), 206-27.
- With Lillian F. Gates. “Canadian and American Land Policy Decisions, 1930.” *Western Historical Quarterly* 15 (October 1984), 389-405.
- “The Intermountain West Against Itself.” *Arizona and the West* 27 (Autumn 1985), 205-36.

#### ポール・ゲイツの業績に対する評価

- Frederick Merk, “Foreword.” *The Frontier in American Development: Essays in Honor of Paul Wallace Gates*, ed. David M. Ellis. Ithaca, Cornell U.P., 1969.
- Joseph M. Petulla, “Paul Wallace Gates, Historian of Public Land Policy.” *California Historical Quarterly* 56 (1977), 170-74.
- Robert P. Swierenga, “Land Speculation and Its Impact on American Economic Growth and Welfare: A Historiographical Review.” *Western Historical Quarterly* 8 (1977), 283-302.
- Margaret B. Bogue and Allan Bogue, “Paul Gates.” *Great Plains Journal* 18 (1979), 22-32.
- Resinald Horsman, “Changing Images of the Public Domain: Historians and the Shaping of Midwestern Frontiers.” *This Land of Ours: The Acquisition and Disposition of the Public Domain*. Indianapolis, Indiana Historical Society, 1978, 60-86.

- Harry N. Scheiber, "The Economic Historian as Realist and as Keeper of Democratic Ideals : Paul Wallace Gates's Studies of American Land policy." *Journal of Economic History* 40 (1980), 585-593.
- Lawrence B. Lee, "Introduction." *Land and Law in California*, Paul Gates. Ames, Iowa State U. P., 1991.
- Jon Gjerde, "Roots of Maladgustment in the Land : Paul Wallace Gates." *Reviews in American History* 19 (1991), 142-153.
- Allan G. Bogue and Amargaret B. Bogue, "Introduction." *The Jeffersonian Dream*, Paul Gates. Albuquerque, Univ. of New Mexico P., 1996.
- 岡田泰男 「ゲイツ教授とアメリカ公有地史」『三田学会雑誌』63巻10号 (1970), 74-83頁。